

【 果 樹 】

ミカンをはじめ、柑橘類の入荷が少ないことから果実全体の入荷量は減少している。
干し柿類については、福島県産が出荷最盛期を迎え、荷動き優先の販売となっている。
今後は、各品目とも末端の売れ行きを注視しながらではあるが、相場は保合での販売となる見通し。

<あんぽ柿>

京浜市場では、仲卸も在庫を抱えながらの販売のため引合いはあまりなく、荷動きは鈍い状況となっている。関西市場では、末端消費が鈍いこともあり市場～仲卸～店の間の流れは鈍い状況となっている。

「蜂屋柿 230g トレー」 @特秀 4L 380～360 円

「平核無 200g トレー」 @特秀 3L 330～320 円

「蜂屋柿 1Kg 化粧箱」 @特秀 3L 1,400～1,200 円

【 野 菜 】

年末年始の需要が終わり、野菜全般に消費が落ち着いている環境下で、関東地方では週末にかけて好天・気温高となり葉物類・重量野菜中心に潤沢な入荷が続いたため、荷動きを止めないよう慎重な相場展開となった。今後は再度冷え込みが強まる予報から鍋商材の荷動き改善が期待される。

<いちご>

年内の数量が少なかったことから売場も広がっていない中で、2番果の入荷がまとまり始めとなっている。年内の高値反動もあり、在庫を抱えての厳しい販売が続いているが、量販店の売価も下がってくるため、徐々に荷動きも出てくる見込み。

@2L 420～400 円 A 380～350 円

<に ら>

北海道市場は道内産無加温物の増量、京浜市場は月末にかけて栃木県産が出荷ピークを迎える見込みから、相場をさらに弱めて売り込みを強める見通し。

@A L 100～80 円

<春 菊>

茨城県産、福島県産が2回目のピークとなり全体量は回復となるが、今後、強い寒波予報が出ていることから、週末にかけて引き合いが強まる見込みで、相場は下げ止めとなる見通し。

@A 110 円 ～ 80 円